

冬季オリンピック・パラリンピック招致について

皆さんの声を聞かせてください

詳細 スポーツ部企画事業課 ☎211-3044

(写真) ソチオリンピック会場の様子 (提供: アフロ)

これまでと今後の動き

平成25年
9月

市議会で、冬季オリンピック・パラリンピックの費用などの調査費計上を表明

平成26年
4月

冬季オリンピック・パラリンピックの調査を開始

平成26年
9月

冬季オリンピック・パラリンピックの調査結果を公表

平成26年
10月

広報さっぽろ、市民アンケートなどで市民意見を募集

現在はこちら!

アンケート結果などを踏まえ、年内に札幌市として招致の是非を判断

市長からのメッセージ

札幌市長 うえだふみお 上田文雄



1972年2月——札幌の街はアジア初の冬季オリンピック開催という歓びと興奮に包まれました。あの素晴らしい記憶から40年余りの時を経て、再び、札幌にオリンピックを招致し、開催都市としての誇りや、競技施設などの新しい“財産”を、未来の子どもたちに残したい、そうした思いが湧きあがってきました。

私自身、今年2月にソチオリンピックの会場を訪れ、このイベントが持つまちづくりへの可能性を肌で感じて参りました。オリンピックは街の魅力を新たなステージへと押し上げるだけでなく、世界における冬季スポーツの牽引都市として、北海道、さらには日本の経済にも大きな効果をもたらすことができるのではないのでしょうか。そのためには、国や北海道、企業などの力を結集していくことが不可欠ですし、何より、市民の皆さんの応援や熱意が必要です。

今回、2026年大会の招致を想定し、現時点で予測できる限りの費用や効果を試算しました。ぜひご覧いただき、皆さんの意見をお聞かせください。寄せられた声などを踏まえ、年内に、市として招致の是非を判断いたします。

2026年(平成38年)大会を想定した開催都市決定までのスケジュール

2015年～(平成27年～)

招致に向けた開催計画の策定など

2017年(平成29年)

IOC※に日本の候補都市を申請

2019年(平成31年)

IOC総会で開催都市が決定

※IOC(国際オリンピック委員会): オリンピックを主催する団体

成功の歴史

1972年に開催した“札幌冬季オリンピック”がもたらしたもの

数々の競技場のほか、選手村だった真駒内団地や、地下鉄、地下街——。オリンピックがまちに残した多くの財産は、今も市民の生活に重要な役割を果たしています。

サッポロ

“Sapporo”の名が一躍世界へ

アジア初の冬季オリンピック開催は、札幌の名声を世界中に広め、都市の国際化に大きく貢献しました。また、競技施設が充実したことで、スキージャンプの世界大会が開かれるなど、冬季スポーツの拠点としての地位を築きました。

きっかけ

近代都市へと変貌する“契機”に

北海道で初となる高速道路「道央自動車道」と「札幌自動車道」の一部が開通したほか、オリンピックの開会式・閉会式が行われた真駒内地域と都心を結ぶ「地下鉄南北線」も開業。地下街も整備されました。



《写真》札幌オリンピック開会式の様子（提供：アフロ）

▲市民の協力によるスムーズな大会運営は世界から高い評価を受けた



札幌市公文書館所蔵

▲天候に左右されずに買い物などが楽しめる地下街「ポールタウン」と「オーロラタウン」がオープン（1971年）



札幌市公文書館所蔵

▲世界的にもまれな積雪都市である札幌の交通を飛躍的に向上させた地下鉄南北線の開通（1971年）

開催データ

会期 昭和47年2月3日～13日の11日間
競技数 6競技35種目 会場数 14会場
参加国数 35カ国 選手・役員数 1,655人
関連施設整備費 約2,000億円（高速道路、地下鉄含む） 大会運営費 約81億円

参考 昭和47年の市職員（大卒）の初任給は49,300円、市の一般会計予算は約736億円



写真提供：アフロ

▲日本ジャンプ陣のメダル独占は今も語り継がれる伝説

体験者に聞く

札幌で暮らす喜びや誇りを感じた



札幌冬季オリンピックで競技運営などに携わった
こいわ いさむ
小岩 勇 さん

分厚い氷の塊を手作業で貼りつけるボブスレーコース作りを、多くの市民の方と一緒に行いました。皆さん、地元での大会を成功させたいという思いが強く、凍てつくような寒さの中でも笑顔で取り組んでいたことは忘れられません。札幌冬季オリンピックは、我々市民に“北国で暮らすことの喜びや誇り”を培うきっかけを与えてくれたと感じています。

今に受け継ぐ 環境に優しい暖房システム

選手村となっていた真駒内地区や、都心部の多くのビルでは、共通の熱供給設備から配管を通じて暖房を行う効率的なシステムを取り入れられました。現在は清掃工場の排熱も有効利用されており、開催当時の環境への思いが今に息づいています。



▲駒岡清掃工場から出る排熱を活用している真駒内地区

意義と効果

冬季オリンピック・パラリンピック招致が人々とまちに豊かさをもたらす

半世紀を経て、世界最大の冬のスポーツイベントを開催することは、まちににぎわいを生み出し、再び世界に札幌・北海道の魅力を発信する絶好の機会になります。

スポーツの力で市民に夢と誇りを

自分の住む街で開催される喜びと興奮

一流選手の熱戦を間近に見られるだけでなく、世界中が注目する祭典が地元で開催されることで、次代を担う子どもたちの夢や誇りを持つ心を育みます。

世界を身近に感じる

海外から訪れる選手や観光客と触れ合うことで、文化の違いを肌で感じ、世界に目を向けるきっかけになります。



オリンピックでまちが変わる

競技施設や民間施設が新しく

更新の時期を迎える競技施設が国際基準のものに建て替わるほか、市内のホテルや飲食店などでは、観光客の増加を見越したリニューアルの進捗が期待されます。

パラリンピックを契機により優しいまちへ

将来の超高齢社会を見据え、年齢や障がいの有無に関わらず、全ての人々が安心して快適に過ごせるバリアフリーのまちづくりが加速します。



札幌・北海道の経済が元気に

開催中に訪れる観光客は約377万人

オリンピックの開催が決まると、まちの注目度が上がり、期間中のみならず、世界各国から大勢の観光客が札幌を訪れることが見込まれます。

経済波及効果は道内で約7,700億円、約61,000人の雇用を誘発

新たな需要や雇用を生むとともに、施設を活用した国際大会や合宿の招致など、開催後も継続的な効果が期待できます。



専門家に聞く

札幌がアジアにおける冬季スポーツの牽引役に！



早稲田大学
スポーツ科学学術院
原田 宗彦 教授

良質な雪に恵まれ、交通網など都市基盤が整う札幌は、オリンピックの開催に適した都市です。2度目の開催は、札幌が世界、とりわけアジアにおける冬季スポーツの牽引役としての確かな地位を築くだけでなく、都市のブランド力を高め、観光客を増やすことにもなります。また開催後も、競技施設を活用しながら、国際大会の開催・選手の育成に努めることで、世界・アジアからの注目を集め続けることができます。

けんいん
アジアにおける
スポーツツーリズム※
先進都市へ

オリンピック後も
競技施設を活用し
世界・アジアに貢献

※スポーツを観光資源として生かし、スポーツ観戦やイベントと、開催地周辺の観光とを組み合わせた観光誘致戦略

費用の試算

冬季オリンピック・パラリンピック開催に必要な経費とその負担

開催に必要な経費は4,045億円を見込んでおり、そのうち、市が負担する額は715億円と試算しています。

試算の前提

- ◆具体的な開催計画が未定のため、いずれの金額も他都市の事例などを基に算出したものです。
- ◆大会の規模は、直近のソチオリンピックや、長野オリンピックなどを参考にしています。
- ◆札幌市の負担額は、長野オリンピックなどを参考にしています。

項目	総経費 (A)	組織委員会などの負担額 (B)	札幌市負担額 (A-B)	考え方
競技施設建設費  <small>写真提供: アフロ</small>	995億円	741億円	254億円	<ul style="list-style-type: none"> ・月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場、藤野リージュ競技場、真駒内公園屋内・屋外競技場は建て替えを想定 ・開会式、閉会式の会場は札幌ドームを想定
選手村・メディアセンター等建設費  <small>写真提供: アフロ</small>	1,139億円	907億円	232億円	<ul style="list-style-type: none"> ・官民が連携して設置し、大会後も活用する方向で検討 ・選手村は4,500人、メディアセンターは10,000人の受け入れを想定
大会運営費  <small>写真提供: アフロ</small>	1,861億円	1,667億円	194億円	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ放映の分配金、スポンサー収入、入場料などで賄うことを見込んで試算 ・長野五輪(1998年)からバンクーバー五輪(2010年)の大会運営費の平均額から算出
招致経費	50億円	15億円	35億円	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定費、広報活動費など ・長野五輪(1998年)と東京五輪(2020年)の招致費用の平均額から算出
開催費合計	4,045億円	3,330億円	715億円 (359億円)*	※オリンピックを開催しない場合でも必要となる、競技施設など既存施設の建て替え費用356億円を差し引いた負担額

参考

札幌ドームの建設には、537億円掛かりました



★上表の(B)は、民間と連携した施設の設置やスポンサー収入、国・北海道からの財政的な支援などを見込んでいますが、総経費も含めて現時点では確定できない要素が多く、市の負担額が試算の金額を上回る可能性があります。

★具体的な開催計画が未定のため、上記の試算には含まれていませんが、道路整備などの費用が掛かる可能性があります。

Q. 715億円も負担すると、市の財政は厳しくならないの？

A. 市は、この10年間で市債(市の借金)残高を約4,700億円減らすとともに、事務や事業の見直しを進め、財政の健全な運営に努めてきました。今後も厳しい財政状況が続きますが、国などへの支援の要請や民間との連携を行いながら、引き続き行財政改革を進め、必要な経費を捻出していきます。

費用の支払いイメージ

オリンピック開催決定後の40年間で支払うとした場合、利子も含めて毎年およそ20億円ずつ支払うことを想定しています。これは市民一人当たり、年間で約1,000円分に相当します。

想定と 課題

冬季オリンピック・パラリンピックを もし、札幌で開催するとしたら？

ここでは、札幌で開催する場合に想定される大会規模や実施する競技を紹介。
また、招致・開催する際に取り組みべき課題をお伝えします。

オリンピック

4年に一度の世界的なスポーツの祭典。冬季大会には90年以上もの歴史があります。

大会期間／17日間(2月開催)
参加選手／2,800人 参加国・地域数／88
競技数／7競技98種目 観客数／125万8千人

主な競技

(写真提供：アフロ)



【他にも】スピードスケート、ボブスレー、リュージュ、アイスホッケーなど



ソチオリンピック
スキージャンプ ラージヒル個人 銀メダリスト
葛西 紀明 選手からのメッセージ

世界中のアスリートにとって夢の舞台であるオリンピックには、街全体を独特の熱気と興奮で包み、国籍や人種の違いを越えて、観る人に感動を与える力があります。地元である北海道・札幌で開催されることで、冬季スポーツが、皆さんにとってより身近なものになるとうれしいです。

パラリンピック

世界最高峰の障がい者スポーツ大会。4年に一度、オリンピック終了直後に同じ場所で開催されます。

大会期間／10日間(3月開催)
参加選手／550人 参加国・地域数／45
競技数／5競技72種目 観客数／21万5千人

主な競技

(写真提供：アフロ)



【他にも】車いすカーリング



ソチパラリンピック
バイアスロン ショート 銅メダリスト
久保 恒造 選手からのメッセージ

競技によっては激しいぶつかり合いがあったり、義足の選手が急斜面を猛烈なスピードで滑り降りたりと、見ていて心が揺さぶられる場面がたくさんあります。身体にハンディがあっても、あきらめずにプレーする姿を通して、市民の皆さんと夢や希望を分かち合えたらいいですね。

招致・開催には課題もあります

Q. 札幌で全ての競技を開催できるの？

A. オリンピックは1都市での開催が原則ですが、滑降など一部のスキー種目では、基準を満たす会場が市内にはなく、市外での実施を想定しています。その他の競技は、今後、開催計画を策定する時点で、具体的に検討する必要があります。

Q. そもそも、2026年大会を目指す理由は？

A. 前回の札幌開催から40数年が経ち、当時建てられた競技施設などの多くが更新の時期を迎えます。施設が生まれ変わるこの時機を最大限に活かすため、最短で招致申請が可能な2026年大会を想定しています。

Q. 札幌が招致を決めれば、すぐに立候補できるの？

A. 現在、2018年の平昌(韓国)に続く2022年大会の都市選考が行われています。北京、オスロ、アルマトイが立候補しており、来年7月に決定する予定。札幌市は、2022年が続けてアジアの都市に決まるかどうかなども考慮しながら、日本オリンピック委員会などと協議していく必要があります。

札幌は、1972年の冬季オリンピック以降も国際的な大会を開催しており、十分な実績がある。もう一度、世界の注目を集めることができるいい機会だと思う。
(40代・男性)



冬季オリンピックの開催は市民としてうれしいこと。ただ、過去の開催都市には、多額の負債を抱えたところもあるようなので、そうした過去の事例も参考にしてほしい。
(10代・男性)



世界のあらゆる国から、選手や観光客が札幌を訪れることは良いことだと思うが、そのことで街の治安が悪化してしまわないか不安に感じる。
(20代・女性)

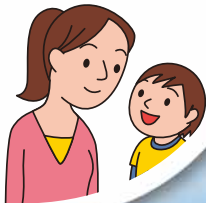


市民の声

招致するべきかどうか 街行く市民の皆さんに聞きました

※大通公園でのアンケートなどを基に構成しています。

競技施設が大会後も有効に活用できるかについて、十分検討するべきでは。環境に優しく、子どもたちが将来にわたって利用できるようにしてほしい。
(30代・女性)



消費税率のアップなど、いろいろな負担が増える中で、オリンピック開催のために市が借金をすることには反対。もっと優先して取り組むことがあるのでは。
(70代・男性)



札幌は、ひと冬に6mもの雪が降り積もる世界でも珍しい大都市。オリンピックをきっかけにそうした街の魅力を世界に発信することで、観光客の増加につながるとうれしい。
(50代・女性)



ご意見をお寄せください

招致の是非について、市民の皆さんの中から無作為で選ばれた「1万人アンケート」を実施するとともに、この誌面を読んだ方からのご意見を募集します。それらの結果は、後日、本誌で公表する予定です。多くの皆さんからのご意見をお待ちしています。

応募方法

区役所などで配布中の応募用紙のほか、はがき、ファクス、Eメールで応募可能。①招致の是非②招致についての意見③性別④年代を記入し、10/20(月)(必着)まで。ホームページからも応募できます。

送付先

スポーツ部企画事業課
〒060-0002 中央区北2西2 STV北2条ビル7階
ファクス 211-3046 Eメール sports-o@city.sapporo.jp

応募フォームのほか、費用や効果についての調査結果の詳細は、ホームページで公開中

札幌市 冬季オリンピック・パラリンピック調査結果

検索